

浅間山の噴火警戒レベル引き下げにあたって

昨日、気象庁より、噴火予報が発表され、噴火警戒レベルが、「レベル2」から、「レベル1」へ引き下げられました。

浅間山では8月26日以降、噴火は発生しておらず、レベル2が継続されていましたが、大きな変動もなく平穏に経過し、待望のレベル1となりましたことに、心より安堵しております。

この間、日々観測を実施いただいている気象庁はじめ関係機関の皆様のご労苦に対し、感謝と御礼を申し上げます。

浅間山周辺は、災害対策基本法に基づく「警戒区域」として、山頂火口から4 km以内は立入禁止区域となっています。

ただし、噴火警戒レベルに応じ、登山道のみの立ち入りを認めています。

これまでのレベル2では、山頂火口から概ね2 kmまでしか登山できませんでしたが、レベル1に引き下げられたことで、概ね500 m、前掛山の山頂までの登山が可能となります。

しかし、8月7日には気象庁などが観測する火山性地震をはじめとした観測データに、目立った予兆もないまま、突然噴火をしました。

立ち入りを認めている登山道であっても、活火山であることと、積雪その他災害への警戒を忘れずに、必ず登山届を提出していただき、気象情報や小諸市防災情報メール配信サービス等、情報収集に努められ、無理のない計画のもと、火山等の危険があることを承知で登山するか、断念するかを自らの判断により登山をしていただきたいと思います。

ご自身の命を守るため、ヘルメットの着用をお願いします。

また、台風19号の影響により、黒斑コース登山口の車坂峠へ向かうチェリーパークラインが通行止めとなっております。

う回路の「湯の丸高峰林道線」は通行制限がありますので、事前に道路状況の確認をしてください。

四季折々、様々な表情を見せてくれる雄大な浅間山の景観は、小諸の大切な観光資源です。

晩秋のこの季節は、緑の園であったカラマツの森が一面の「黄金色」に染まります。

また、晩秋に薄っすらと雪化粧した雄姿は、チョコレートケーキに粉砂糖を振りかけたような「ガトーショコラの浅間山」を眺めに多くの登山者が訪れています。

これから本格的な冬に向かいますが、季節限定のこの時期に多くの皆様にお越しいただき、大自然を満喫いただければと思います。

有史以来、浅間山は、豊かな恵みを与える一方、時として災いももたらしてきましたが、山麓に暮らすものにとっては心の拠り所であり、郷土の誇りです。

私たちは、これまでも、そして、これからも浅間山と共生してまいります。

令和元年11月7日

小諸市長 小 泉 俊 博